

これまでの検討経過について

練馬区立大泉第二中学校の教育環境保全および
都市計画道路の整備に関する有識者委員会

1.これまでの検討経過

- 平成15年度：

補助135号線 (放射6~大泉学園駅再開発事業区域)	}	が第三次事業化計画（H16~H27）優先整備路線に選定
- 平成15年度：

補助135号線 (大泉学園駅前再開発地区~補助232号線)	}	を練馬区中期実施計画（H16~H18）に位置づけ
- 平成16年度：大泉学園駅南側地区におけるアンケート調査の実施
- 平成17
~
18年度：全体準備会、都市計画道路に係る関係権利者説明会（2回実施）
- 平成20年度：大泉第二中学校の通学区域内において学校移転のための用地取得を検討
- 平成21年度：道路構造の検討（道路の地下化・高架化検討）
- 平成22年度：大泉第二中学校の現在の敷地内での校舎等建替えを検討
- 平成24年度：練馬区長期計画後期実施計画で都市計画道路の整備計画区間の変更
- 平成25年度：人工地盤を活用した検討（素案公表）
- 平成27年度：都市計画道路の整備方針（第四次事業化計画）（案）の公表

※その他、検討の進捗に応じて「みちづくり・まちづくり通信」を発行し、地域に情報提供を行っています。

2.路線整備に向けたこれまでの取り組み状況 ①

平成16年度：大泉学園駅南側地区におけるアンケート調査の実施

区は、大泉学園駅の南側に位置する補助135号線および232号線沿道の約70ヘクタールの区域を「大泉学園駅南側地区」とし、平成16年12月、その地区にお住まいの皆さまを対象に当該路線の整備を含めたまちづくりに関するアンケート調査を実施しました。

概要

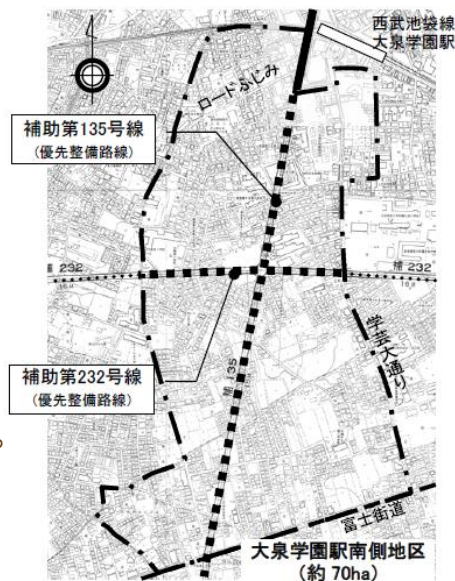
- 「まちの現況と課題」「まちづくりの取り組み」等についてご意見を伺いました。
- 配布数（約4,000票）の約4分の1が回収されました。

主な意見

- 落ち着いた住宅地・駅や商店街に近くて便利というところが気に入っている一方、防犯上の不安・道路の狭さ・通過交通の多さが問題。
- 生活道路への通過交通が流入しないような取り組みが必要。
- およそ8割のみなさまが「まちづくりについて検討していく場が必要」と考えている。



区では、都市計画道路の整備着手に先立ち、地域の皆さんとともに、都市計画道路を含めた地区のまちづくりのあり方について、検討する場を設けて、検討していくこととしました。



■出典：まちづくり・まちづくり通信

2.路線整備に向けたこれまでの取り組み状況 ②

平成17～18年度：全体準備会（H18.2）、権利者説明会（2回）

概要

区は、平成17～18年度に、補助135号線および232号線の整備と大泉学園駅南側地区のまちづくりについて、地域の皆さまと話し合いをおこないました。

■全体準備会（平成17年度）

平成16年度に実施したアンケートで「まちづくりについて検討していく場」に参加したいと回答された皆さまと意見交換を行いました。

■権利者説明会（平成18年度）

全体準備会のご意見を踏まえ、補助135号線および232号線に関わる権利者の皆さまを対象に、都市計画道路整備の手続きやまちづくりの取り組み方についてご説明し、意見交換を行いました。

主な意見

- 検討する場を設けることが必要
- 都市計画道路に関係する方の意見を聞くことが必要
- 都市計画道路の整備の必要性について
- 事業の早期具体化について
- 用地取得・補償の進め方について
- 大泉第二中学校の取扱いについて

■全体準備会（H17）



■権利者説明会（H18）

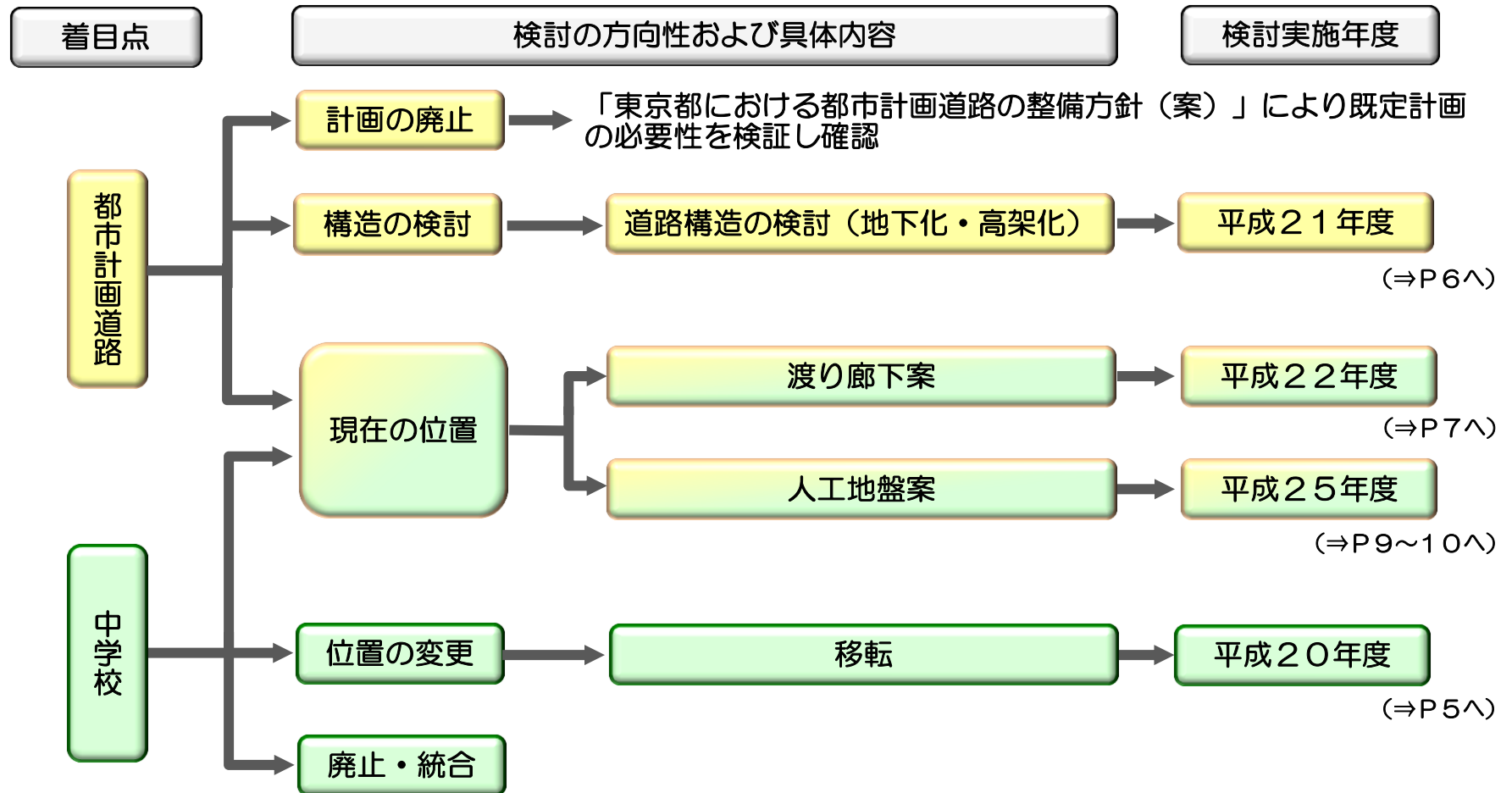


■出典：みちづくり・まちづくり通信

区は、都市計画道路の整備やまちづくりについて情報をご提供し、地域の皆さまと話し合いを続けていくとともに、大泉第二中学校の取扱いについて検討していくこととしました。

2.路線整備に向けたこれまでの取り組み状況 ③

これまでの取り組みにおける検討の方向性および具体内容



2.路線整備に向けたこれまでの取り組み状況 ④

平成20年度：大泉第二中学校の通学区域内において学校移転のための用地取得を検討

区は、大泉第二中学校の通学区域内において、大規模な土地を対象に学校移転の候補地として用地取得を検討しました。



大泉第二中学校の学校区域

■出典：みちづくり・まちづくり通信

土地の利用状況や規模等を総合的に勘案し、検討時点においては移転候補地を取得することは難しいため、学校移転は困難であると判断しました。

2.路線整備に向けたこれまでの取り組み状況 ⑤

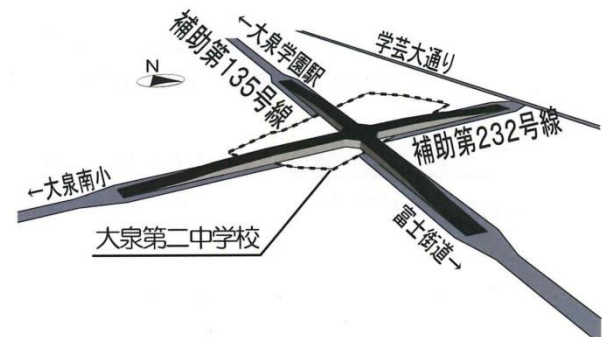
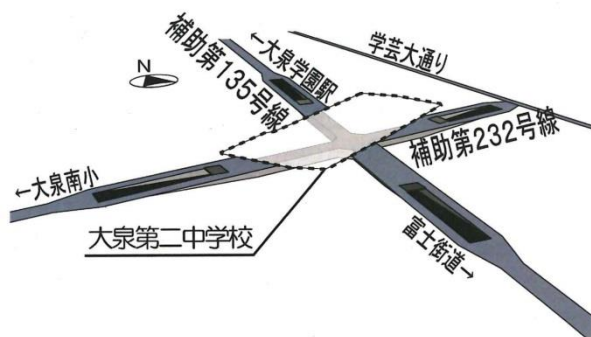
平成21年度：道路構造の検討（道路の地下化・高架化検討）

区は、前年度行った学校移転は困難であるとした検討結果を受けて、本検討を実施しました。

補助135号線および232号線の位置は、広域的な道路網計画により定められており、計画線内では長期間にわたり建築制限が行われています。そこで路線の位置は変更しないで中学校への影響を少なくするため、敷地内の道路は高架もしくは地下で整備する構造を検討しました。

■道路地下案（学校敷地下に地下道路を構築する案）

■道路高架案（学校敷地上に高架道路を構築する案）



■出典：みちづくり・まちづくり通信

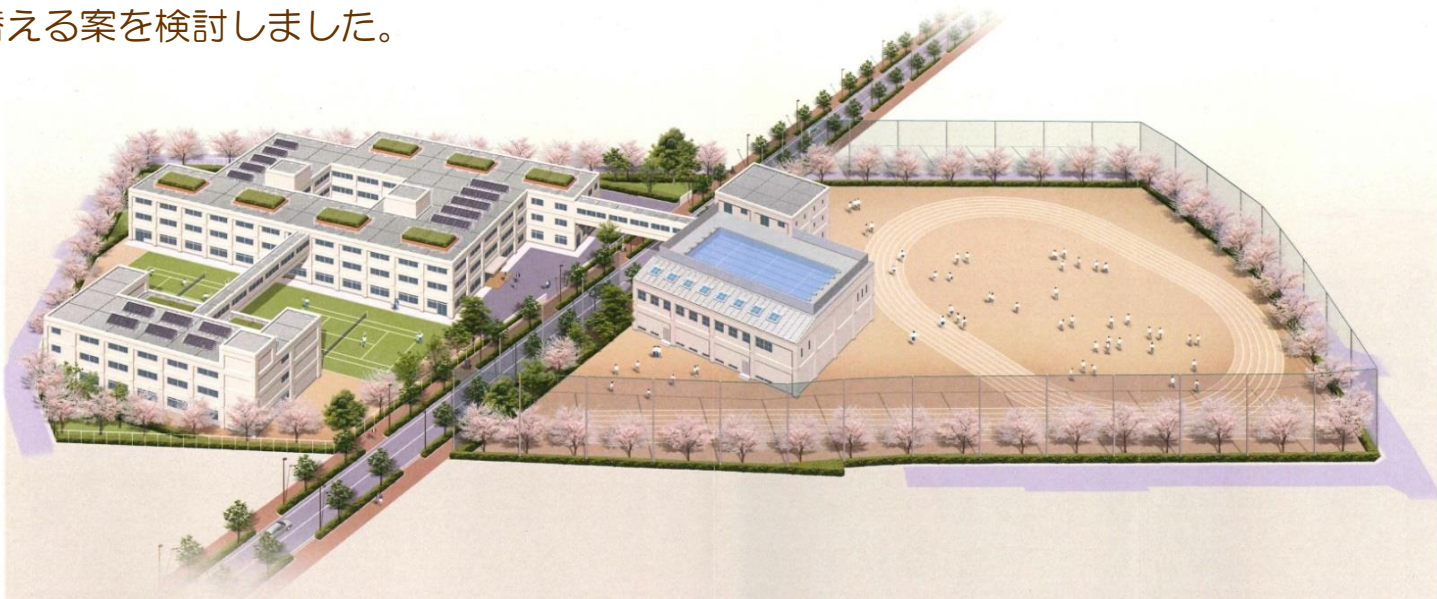
道路高架案および道路地下案のいずれも周辺の既存道路・宅地との接続や構造物の構築のため、道路を整備する範囲を現在の計画よりも広くする必要があります。また、交差点処理にも課題があること等の理由から実施困難と判断しました。

2.路線整備に向けたこれまでの取り組み状況 ⑥

平成22年度：大泉第二中学校の現在の敷地内での校舎等建替えを検討（渡り廊下案）

区は、これまでの通学区域内における移転が困難なこと、道路の地下化・高架化が困難であることを受けて、本検討を実施しました。

補助135号線の平面構造の整備とあわせて用途地域を変更することにより、大泉第二中学校の校舎等を現在の敷地で建替える案を検討しました。



■出典：みちづくり・まちづくり通信

用途地域変更による校舎建替えは可能ですが学校敷地は二分割となります。道路整備と教育環境確保の両立には、さらなる検討が必要と考えました。また、運動場面積をより広く確保するため、補助135号線の優先的な整備を検討しました。

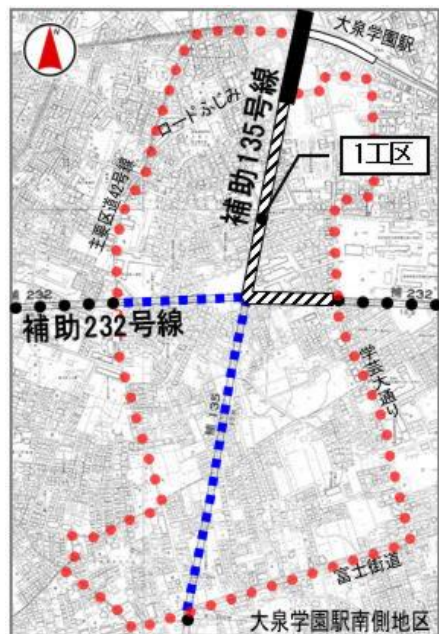
2.路線整備に向けたこれまでの取り組み状況 ⑦

平成24年度：整備計画区間の変更

区は、練馬区長期計画後期実施計画（H24～H26）の中で、都市計画道路の整備計画区間の変更を行いました。

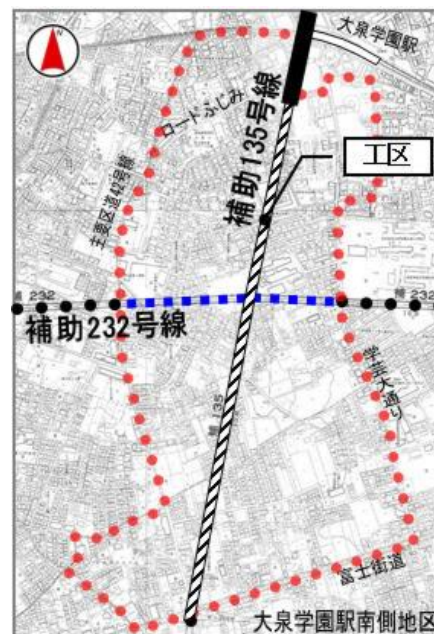
変更前

補助135号線（西武池袋線南側～補助232号線交差部）
補助232号線（学芸大通り～補助135号線交差部）



変更後

補助135号線（西武池袋線南側～富士街道）



■出典：練馬区HP

大泉第二中学校の教育環境をできるだけ確保する観点から、現時点では補助135号線のうち大泉学園駅南側から富士街道までの区間を優先的に整備することとしました。

2.路線整備に向けたこれまでの取り組み状況 ⑧

平成25年度：人工地盤を活用した検討（運動場部分も人工地盤とする案）

区は、これまでの検討結果および前年度の練馬区長期計画後期実施計画の見直しを受けて、本検討を実施しました。

大泉第二中学校の一体的な利用を可能とするため、人工地盤を活用した案を検討しました。下図は、補助135号線の上部および運動場部分を人工地盤とする案です。



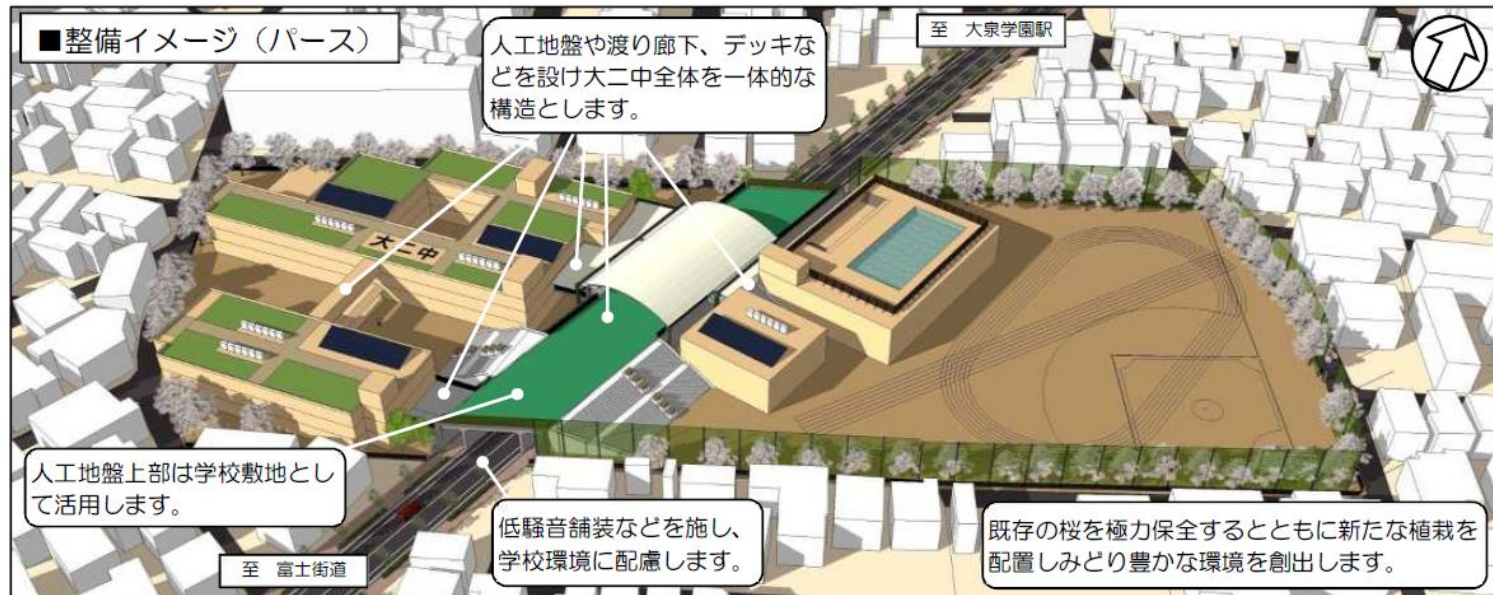
■出典：みちづくり・まちづくり通信

補助135号線の上部および運動場部分を人工地盤とする案は、道路整備と教育環境確保の調和が可能ですが、周辺宅地への圧迫感や施工性および経済性において課題が残ります。

2.路線整備に向けたこれまでの取り組み状況 ⑨

平成25年度：人工地盤を活用した検討（補助135号線の上部のみ人工地盤を構築する案）

下図は、人工地盤を活用した案の中で、補助135号線の上部のみ人工地盤を設置した案です。道路の完成時期に合わせて大二中の校舎等を建替え、施設の更新と機能の拡充を図ることとしました。



■出典：みちづくり・まちづくり通信

区は当時、補助135号線の上部のみ人工地盤を構築する案を採用し、整備に向けた区の素案として地域の皆様に公表しました。

3.現在の状況

平成27年度：整備計画（素案）の見直しおよび有識者委員会の設置

区は、平成25年度に公表した「整備計画（素案）」について、将来の課題としていた補助232号線の整備も想定した上で、中学校の教育環境を確実に保全する再建策の検討が必要であると判断し、見直すこととしました。

将来に課題を先送りすることのない、より良い教育環境の保全策を検討するため、有識者委員会を設置し教育環境保全と補助135号線等の整備のあり方について、引き続き検討を進めていきます。

＜素案における平面イメージ＞



■出典：みちづくり・まちづくり通信